

## 平成 26 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(岸地区)

開催日時	平成 26 年 10 月 23 日 (木) 午後 7 時から午後 9 時	天気 雨
場 所	岸集会所	
町民参加者	男 21 人 女 2 人 (40 代以下 0 人、50 代 4 人、60 代以上 19 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画財政課長、総務防災課長、環境農林課長、参事兼都市整備課長、学校教育課長、事務局 2 人	

### 出席者から出された主な意見や提案

#### 《テーマ：川村小学校入口横断歩道の安全対策》

○川村小学校下の横断歩道ではさんぽトロールの方と、丸山山頂部の工事関係者が朝夕の見守りをしてきている。しかし、山頂部の工事が終了すると交通整理員がいなくなるとともに、町道化による交通量の増加が考えられるので大変心配している。岸側から直接学校側道路の高さまで上げられる歩道橋を設置していただけないか。

#### 《テーマ：空家（再活用不適）と付属する庭木対策について》

○再活用できないような空き家が散見される。岸地区の自治会の中には、空き家が世帯数の 10% を超えているところもある。庭木が隣家へ入ってしまっても個人の財産で手が出せない状況である。簡単な問題ではないことは百も承知しているが早急に対策を考える必要がある。

○町は空き家の実態調査をして、住人が戻ってくるのか、壊してもよいものなのか、人に譲りたいものなのかを具体的に把握して、町としても買い取りや借り受けをして、住みたい人との仲介役になっていただければと思う。

○地域が協力して空き家を整理したときに、廃材などは町の施設に持ち込んで処理してもらうことはできないか。

○空き家があると、一番心配なのは浮浪者が入り込むことで、これによって火災が起きた場合はどうなるのかと心配だ。

○所有者が適正な対策を講じない空き家の処理費は、多少税金で賄っても仕方ないのではないか。

#### 《テーマ：災害時に機能する自主防災組織のあり方》

○自主防災組織は自治会の仕事であることは理解しているが、自治会の中には防災の専門者がおらず、自治会の規模も様々であるので、組織を編成する場合は専門者を集めなければならないことになる。このため、自治会単位ではなくもう少し大きなグループで組織することが必要で

ないか。

○自治会は2年で役員が変わるため、自治会組織とは別の組織で自主防災組織を作る必要があると思うが、今はどうしても自治会のメンバーでやるしか人材がない。

○町で手取り足取り自主防災組織を作ってくれということではないが、例えば、この地区はこういう災害が起き、こういう被害が起きたからどうするというような訓練をして、意識付けをする必要があるのではないか。

○自主防災組織を専門的な技術集団のような話で議論がされているが、自治会には専門的なことは求められていないと思う。隣り3軒の話のように、声掛けをすることにより一人でも多くの人が安全に避難できるようにすることが重要。

○自主防災組織がきちりしているの要援護者支援制度。この形のままで自治会に投げられては、自治会はギブアップとなる。

○防災ハンドブックの啓発はどうするのか。非常用持出品が記載されていても、先日の避難訓練では誰も持っていなかった。

○自治会長の責任で避難所を開設した場合、何かあった際の責任は誰がとるのか。

### 《テーマ：町政全般》

○今年の防災訓練に初めて中学生が参加し、多くの方が防災に対して参画したという認識を持ったが、継続してやっていくのか。